

ベ　ー　リ　ン　グ　要　素

小　泉　源　一

大正八年予は日本高山植物要素の由來を論ぜし時、ベーリング地域は第三紀終第四紀始に於て寒地植物要素の發生盛にして、其等の内には日本群島の長軸に沿ひ南下せしもの多きを指摘し、且つ之等をベーリング要素として示したり。

ベーリング海峡は目下幅さ六十哩にして最深僅に 32 尋、平均 25 尋に過ぎず、氷紀に於ける氷の蓋積より見ても此海峡は當時乾海の高臺たりし事は考へらるゝも、尙ベーリング要素の當時以來の分布上より亦然らざるを得ざる結論となるが、北米地質地史學者の近來の考察も皆第三紀末より更新世の間はベーリング海峡地方は高臺であつて、當時直ぐ南の British Columbia などは更新世の終りよりも二千呎も高くあつた而此陸橋も更新世の終ると共に又淺海と變じた、と云ふ結論に一致してゐる。

日　本　産　ウ　テ　フ　ラ　ン　屬

Ponerorchis of Japan, J. OHWI.

大　井　次　三　郎

露西亞の學者 NEVSKI は最近 *Orchis pauciflora* FISCH. に對して二個の葯塊の腺体が各別な二個の被包物で包まれて居る點で *Chesua* NEVSKI. を建てたが外觀から云ふと *Orchis* に酷似して居るにも拘はらず此の點では現在の *Orchis* の定義にはあてはまらないのでさうなづけるだけの理由がある、只 *Chesua* よりも *Ponerorchis* REICH. fil. の方が正しいからそれを使ふべきものと考へる、本邦で眞の *Orchis* は *O. aristata* FISCH. (ハクサンチドリ) だけと成り *Ponerorchis* は次の様である。

Ponerorchis REICH. fil. in *Linnaea* 24 (1852) 227

= *Chesua* NEVSKI in KOMAR. Fl. URSS. 4 (1935) 753.

1) *Ponerorchis graminifolia* REICH. fil. l. c. 228 (*Gymnadenia rupestris* MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat. 2 : 209, 1869) ウテフラン.

2) *Ponerorchis Chidori* OHWI, comb. nov. (*Gymnadenia Chidori* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 15 : 47, 1901) ヒナチドリ.

3) *Ponerorchis pauciflora* OHWI, comb. nov. (*Gymnadenia pauciflora* LINDL. Orchid. 280, 1835 = *Chesua secundiflora* NEVSKI l. c. 753) テフセンチドリ.

var. *Joo-Iokiana* OHWI, comb. nov. (*Orchis Joo-Iokiana* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 16 : 57, 1902 ; OHWI in Act. Phytotax. et Geobot. 4 :

42, 1935) = ヨホウチドリ.

4) *Ponerorchis kiraishiensis* OHWI, com. nov. (*Orchis kiraishiensis* HAYATA Icon. Pl. Formos. 9 : 116, 1920) ノウカウチドリ.

5) *Ponerorchis takasago-montana* OHWI, comb. nov. (*Orchis takasago-montana* MASAMUNE in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. 24 : 206, 1934) タカサゴチドリ.

9) *Ponerorchis taiwanensis* OHWI, com. nov. (*Orchis taiwanensis* FUKUYAMA in Bot. Mag. Tokyo 49 : 290, 1935) アネチドリ.

ヤマエンゴサク と テフセンエンゴサク

Corydalis remota FISCH and its Japanese representatives

Jisaburo OHWI

大井次三郎

ヤマエンゴサク程葉形に種々あるものは餘りあるまいと思はれるが、花の形ちは案外變化がないので現在では皆一種にまとめて居つて *Corydalis remota* FISCH. が通用名に成つて居る。しかし此れよりも以前に SIEBOLD et ZUCCARINI が二三の種名を記載したのであつて此の事はすでに小泉教授が *Florae Symbolae Orientali-Asiaticae* (1930) 23 で指摘されて居る。エンゴサクの類の蒴の形ちは案外考へられなかつたのであるが私は餘り馬鹿にしたものでない事を發見した。本邦北地に産するエゾエンゴサクの果實が線形であるのにヤマエンゴサクでは稍短かくて巾廣く成つて居り苞の形の外にもはつきり區別が出来る。所が露西亞の學者の圖解した *Corydalis remota* FISCH. の蒴果は線形であつて本邦のヤマエンゴサクとは少々違ふので注意して見ると *Corydalis remota* FISCH. は本邦では朝鮮だけにしか分布して居らない事を發見した。花葉等では内地のヤマエンゴサクとは殆んど區別は出来ないが蒴果を見ればはつきりする。で此の植物には和名がない様なので新しくテフセンエンゴサクと呼稱する。學名は *Corydalis remota* FISCH. ではあるが *Corydalis Turtschaninovii* BESS. の方が早いからその方が正しい。ラテン語で欄外に書いた記載は極短い記載してある以上は認めない譯には行かない。ヤマエンゴサクの類が *C. lineariloba* S. et Z. であるのは小泉教授の指摘せされた通りである。南鮮の植物は兩種の何れに屬するかはつきりせぬが恐らく兩種ともあるのであらう。その兩品の主な Synonymy は次の様である。但し葉形による種以下の區別は割愛した。